

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本人と仏教
Author(s)	ヤバヤ,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 31期 : 47 - 63
Issue Date	2016-11-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00042507
Right	
Relation	



日本人と仏教

ヤ・バ・ヤ

1 はじめに

仏教は信者数で世界三番目の宗教であり、最近、ヨーロッパでも仏教の教えを信じる人が増えてきたというニュースがミャンマーであったが、それでも、仏教を信じている人は主に、東南アジア、中国、日本に集中している。

本レポートは仏教に対する日本人の意識がミャンマーとどのように違うかを示すことを目的にする。

日本のお坊さんは結婚することができるということが面白い。また、日本に来てびっくりしたことがある。それは、お寺の中に神社が建てられていることである。逆に神社の中にお寺が建てられている場合もある。それらのことをきっかけにし、「日本人と仏教」というテーマを選んだ。もともとから自分は歴史のことを調べるのが好きで、さらに仏教のことにとっても興味を持っていた。ミャンマーでは仏教の教えというのはミャンマー人の毎日の生活に大きな影響を与えている。では、日本の仏教は日本人の生活にどのように影響しているだろうか？

2 研究方法

本やインターネットから仏教の全般的な歴史、日本での歴史と今の状況などを調べる。調べた情報から疑問点をしめし、アンケートを作る。そして、アンケートの回答を分析する。

3 歴史¹

3.1 仏教の始まり

日本書紀によれば、紀元前6世紀にインドの北部『現在、ネパール領内』にシャーカーという民族があった。その民族であるゴータマ・シッダールタという人物がシュッドーダナ（浄飯）王を父、マヤ（摩耶）婦人を母として生まれた。当時の習慣に従い、国の王子として文武両面の教育を受け、16歳という若さで、ヤショーダラ（耶輸陀羅）という美しく、気だてのやさしい娘と結婚し、1人子のラーフラをもうけた。ある日、ゴータマ・シッダールタは城から遊びに出ようと思い、東門を出たら老人、西門を出たら死者、南門を出たら病人を見つけた。しかし、北門を出たときは歩いている出家者を見、心が強くうごかされ、人の一生は苦であり、永遠に続く輪廻の中で終りなく苦しむことを分かり、そこから解脱するために出家しようと思った。29歳（19歳説も）で出家し、ゴータマは、6

年の間ガンジス川（中）流域のあちこちに赴き、さまざまな師に会い、彼らの教えと方法を学び、厳しい苦行に励んだ。そしてある晩、ブッダガヤ（現在のビハール川ガヤの近く）のネーランジャラー川の岸辺で一本の木の下に坐り、35歳にして「目覚めた」。それ以来、ブッダ「目覚めた人」として知られるようになり、この木は菩薩樹、すなわち「目覚め〔菩薩〕の木」と名づけられた。それで、シャーキヤー民族の人々に敬われ、以後、シャーキヤー牟尼仏陀と呼ばれ、それには『目を覚めた人、シャーキヤーの聖者であること、覚者、悟った人』などの意味が含まれていた。悟りを得たゴータマは同僚であった5人の修行者にはじめて説法をした。どんな教えかという、八正道と言われる修行方法。簡単に言えば、正見（正しく物事を見ること）、正思（正しく考えること）、正語（嘘や悪口難言をさげ、正しく言葉を使うこと）、正業（殺生、姦淫にふけることなく正しい行いをする）、正命（正しい生活をする）、正精進（目的に向かって正しく努力する）、正念（正しい生活をする）、正定（心を安定させる）である。釈迦は80歳まで、止まることもなく解脱のため、教え続け、80歳にクシナガラで入滅した。以後、中国、朝鮮半島、日本、アジアの国々に広く伝わっていった。現在は世界大三番目として信仰されている。

3.2 上座仏教（小乗仏教）と大乘仏教

約2500年前にインドに生まれた釈迦様が、悟りをひらき、その教えが現在まで伝えられてきたのが仏教である。釈迦の入滅後、しばらくして釈迦の教えを文字通り忠実に守ろうとした人々と、説かれた教えの心を生かしていこうとする人々に分かれていった。前の人々のことを部派仏教あるいは上座仏教（小乗仏教）と呼び、釈迦の教えの心を中心にしていこうとする人々の仏教を大乘仏教と呼んでいる。大乘・小乗の乗というのは『乗り物』という意味だとされている。私たちが迷っている岸から、悟りの彼岸に渡してくれる教えを、乗り物に例えて『乗』というのだが、大乘は大きな乗り物・優れた乗り物、小乗は小さな・劣った乗り物という意味になる。大乘に対して小乗というのは、大乘の人が小乗のことを軽蔑して言っている、現在では、小乗という言葉を使わずに、部派仏教あるいは上座仏教などと呼んでいる。大乘というゆえんは、人々は皆迷っている存在ではあるが、しかし、必ず仏になる種子を持っており、そして自分よりもまず他人の幸せを願って、共に仏様の教えに従っていこうとする菩薩の道を説く所から、『大きな・深い・より優れた教え』と名付けられた。これに対して、上座仏教では、仏様は釈迦だけで、他の者は声聞とか、阿羅漢という位にしかねないとする考え方である。さらに、上座仏教では、綺麗に咲いている花を見て美しいと思うのは迷いことであると説くのにに対して、大乘仏教は美しい花を見て美しいと感じるのは迷いことではない。しかし、その美しさに心がうばわれ、とらわれてはいけないと説くのである。このように、上座仏教は、人間の欲望などは迷いのもととして厳しく自分を律していくのに対して、大乘仏教は、物事にとらわれない、おおらかな心と、まず、他人のことを考えようという、目を外に向けての立場をと

る。東南アジアの国々は上座仏教で、中国、チベット、朝鮮半島、日本などは大乘仏教が信仰されている。例外としてベトナムは大乘仏教である。

3.3 日本での歴史

仏教の伝来は大和時代 538 年(552 年説もある)、百済の聖明王が欽明天皇に釈迦像と経典を献上した時とされている。実質的には主に朝鮮半島・百済からの渡来人・帰化人が仏教を伝えた。初めて伝えられた仏教は、インド仏教そのままではなく、中国的な変容を遂げた大乘仏教だった。伝えられた仏教は政治勢力に利用されながら、権力者に支持・保護されて徐々に広まった。聖徳太子と蘇我氏は仏教を支持し、当時の都(飛鳥、斑鳩)を中心に繁栄した。当時の日本人は仏教の深い思想を理解したわけではなく、仏教を受容した人々は、仏を靈験あらたかな「蕃神(外国の神)」として崇めたのである。そのため「国神(日本の神)」を崇める人々との間に厳しい対立が生じた。さらに、その対立が有力豪族間の権力闘争とからんだ結果、ついに蘇我氏を中核とする崇仏派と物部氏を中核とする排仏派との戦闘に発展する。戦いは崇仏派の勝利に終わり、以後、仏教は、宗教のみならず、政治や文化の分野でも、古代日本を導く基盤となったのである。聖徳太子は中国に仏教の習得のため遣隋使を派遣した。その意図は仏教による国家鎮護で、仏教をこの目的のために国家機能の一部として取り込んだ。公費で寺を造営・管理し(官寺)、僧侶は官僚としての身分を与えられ(官僧)、僧侶や寺を管理する法律を作った。したがって、僧侶の役割は、国家の安泰を祈祷することが第一の目的となった。奈良時代(710-794)以来、日本から学問をする僧などが中国に渡って、さまざまな仏教を修得し、日本に持ち帰った。特に禅宗に関しては、鎌倉時代(1185-1333)以降、中国から日本にやって来て、本場の禅修行を伝えた者もいた。その後、それらを基に、日本人自身の仏教も創始される。また、そうして出来た宗団から、さまざまに分派していく。さらに、近代になって、仏教思想に基づく新宗教も多く発生した。こうして、多くの仏教教団が存在しているのである。

平安時代(794-1185)の仏教としては、最澄(767-822)の天台宗と、空海(774-835)の真言宗がある。天台宗は、『法華経』と龍樹(ナーガールジュナ、150-250)の『中論』の思想を基に、隋(581-618)の時代の天台智顛が創造した思想に基づく宗派で、教理の学問と独自の瞑想(止観という)を重視する。

鎌倉時代の仏教としては、法然(1133-1212)の浄土宗、親鸞(1173-1262)の浄土真宗、一遍(1239-1289)の時宗があり、これらはいずれも阿弥陀仏の、一切の人々を自分の国である極楽浄土にひきとるという誓願(本願)を頼りとし、念仏を中心とする。また、栄西(1141-1215)が臨済宗の禅を、道元(1200-1253)が曹洞宗の禅を中国から日本に移植した。いずれも坐禅を中心とする禅宗であるが、臨済宗は修行者に課せられる問題(公案という。昔の禅僧の禅問答の意味を問うなど)によって修行して悟りを開くことを目指すという特徴があり、曹洞宗はただ坐禅しぬくこと(只管打坐)の中に悟りの境地を味わ

うという特徴がある。日本の禅宗にはこのほか、江戸時代に中国からやってきた隠元（1592-1673）がその当時の中国の禅宗を伝えた黄檗宗がある。それは、禅と念仏をともに修行する特徴があった。また、密教化していた天台宗を、『法華経』に基づく仏教に純化しようとした日蓮（1222-1282）の仏教、法華宗（日蓮宗）がある。日蓮は、「南無妙法蓮華経」と唱える中に救いがあることを主張した。

室町時代（1336-1573）以降、江戸時代を通じて、新たな宗旨はほぼ出てきていない。明治時代以降、大正時代（1912-1926）頃から、新宗教としての教団がたくさん発生してきた。仏教系の新宗教教団には、『法華経』信仰に基づくものが多く、密教系も多少ある。

3.4 日本文化・芸能における仏教の影響

仏教は文化の核にあるものだから、やはり今日の近代化された人々の生活の背景においても、大きな影響をけっして失っていないと思う。確かに、現代日本の民衆の生活様式は、最新のテクノロジーに支えられ、きわめて合理化されたものとなっている。しかし、日本人は無意識のうちにも伝統的な文化的枠組み、あるいは伝統的な行動様式に深く影響されていると言って、間違いない。たとえば、新年のお正月には、大半の人々が、神社・仏閣に初詣に行く。日頃は、ほとんど神仏への信仰など自覚していないのに、不思議に新年の初めには、皆な敬虔な心を抱くのである。夏のお盆の時期には、今も先祖への追悼の思いを新たにすることが少なくない。春秋のお彼岸（昼と夜が同じ長さになる日）に、先祖のお墓参りをする風習は、今も残っている。現代日本社会に今も生きるこれらの通過儀礼のほか、豊作を祈る春のお祭り、実りに感謝する秋のお祭り等の年中儀礼も、仏教と結びついたものが少なくない。

特に日本の室町時代、将軍でいえば、ほぼ足利義満（1358-1408）以降の時代、禅は日本の社会や文化にきわめて大きな影響を与えていった。将軍足利義満は金閣寺（1397）を造ったことで知られていたが、金閣寺は武家としての文化と、京都の公家の文化が融合した、華やかな様式を持つものであった。

日本には、伝統的な仏教各宗派の寺院も7万7千くらいある。寺院は、古来、関係を持っている家（檀家という）の家族全員をその寺院の信者であると見なし、その数を文化庁に報告する。日本では、江戸時代（1603-1868）に、その者がキリスト教信者でないことをお寺に証明させたことから、寺院とそれぞれの家との関係が固定的に結ばれることになり、その家の葬祭（葬式やその後の法事）は、慣行的に、そのお寺（菩提寺という）によって行われることになったのである。そこで人々は、ふだんお寺にお参りしたりしてなくても、葬式の時などには急遽、関係するお寺に頼むことになる。

3.5 日本における現代仏教

文化庁の「仏教年鑑」を見れば、その仏教の項には13宗（表1）があり、細かく分け

れば 56 宗派があると書かれている。この派も、それぞれ独立した宗である。例えば、天台宗の中は天台宗・天台寺門宗・天台眞盛宗の三つの宗に分かれている。したがって、国の資料によれば、日本には 56 宗派があることになる。ところが、「仏教年鑑」の寺院数の統計では 6 系統・その他に分類されている。寺院数の統計を表にして見た。この(表 1)を見ると、日本のお寺ほとんどは 5 系統の宗派に属していることが分かる。実は、この 5 系統が葬儀や法事をする時のお坊さんが属している宗派である。

表 1 日本の 13 宗派、全国の寺院数、開祖の生年・没年

系統	宗派名	寺院数	開祖・別名 生年・没年
天台系	天台宗・天台寺門宗・天台眞盛宗	4,970	最澄 伝教大師 767-822
真言系	高野山真言宗など	13,783	空海 弘法大師 774-835
浄土系	浄土宗・浄土眞宗・時宗・融通念仏宗など	30,265	源空 円光大師 1133-1212 法然 親鸞 見真大師 1173-1262 良忍 聖應大師 1072-1132 智真 証誠大師 1239-1289 一遍
禅系	臨済宗・曹洞宗・黄檗宗など	20,875	栄西 千光法師 1141-1215 道元 承陽大師 1200-1253 隠元 真空大師 1592-1673
日蓮系	日蓮宗・顕本法華宗	11,940	日蓮 立正大師 1222-1282
奈良仏教系	華嚴宗・法相宗・律宗など	448	
その他		28	

今日本にあるほとんどの仏教は葬式仏教であり、ほとんど寺院は、僧侶がその生活の糧として経営している事業であると言っても良い。仏教の名を借りた事業経営である。その専門は葬式と法事、墓の管理である。悩める人々に法を説き、その人生を救ってくれるような僧侶はほとんどいない。今の(日本)の僧侶たちは人が死ねと葬式の時、経を唱え、多大なお布施を要求する。そして、死人に「戒名」というものを付けるため、また多大な料金を要求するのである。そもそも、「名」というのは魂の型が現世に現れたものである。そして、現代人に信じがたいが、それは偶然付けられるのではない。それは生まれてくる赤ん坊が(魂を)自ら持ってくるのである。そして、名付け親が偶然付けるといわれ「名」というのは、名をつける人が霊的にキャッチして、この子につけるものである。

大政奉還により、維新政府が国家神道により天皇の権威を確立することを意図した神仏分離令を実施すると、その影響で鎌倉新仏教系を除く日本仏教の大半は廃仏毀釈などで衰退する。これに対して、仏教を守る運動が島地黙雷らによって起こされ、廃仏の方針が緩

められる。こうした中で、仏教界は教団運営の近代化に取り込み諸改革を行っている。浄土真宗は清沢満之などの努力により近代化にかなり成功し、日本人の精神的な糧となることができた。また禅宗は知識人を中心に信奉者を集めただけでなく、鈴木大拙らによって欧米に輸出され、東洋精神の象徴として世界的な評価を得る。昭和に入り、世界大戦が勃発し、社会全体に国粹主義的な動向が強くなり、仏教界もその嵐に巻き込まれ軍隊などに協力するようになった。敗戦後は、戦争協力を反省するとともに、平和運動の先頭に立つ活動も現われ、日本仏教再生に踏み出すことになる。

4 疑問点とアンケート

4.1 疑問点

私はアンケートを作る前に広島大学の学生である 5 人くらいに仏教に関する話をした。4 人くらいは自分の宗教が仏教であることを分かっていたが、何の宗派かというのは知らないようだった。そして、大体の日本人は宗教にあまり詳しくないということも聞いた。それでは、現代の日本人は宗教、または仏教をどのように思うか。つまり、日本人が仏教をどのように信じているかということを疑問に思った。例えば、仏教を信じている理由があるかないか。また、仏教が毎日の生活に影響を与えるかなどである。ミャンマーの仏教と比べたら、似ているところがあるが、違うところもたくさんある。例えば、大体のミャンマー人はせめて週に一回くらいはお寺に行く。毎日行く人もいる。毎日、仏像の前に座って、経を唱えたり、お祈りしたり、食べ物を供えたりすることは普通に見られる。しかし、日本では特定の日しかお寺に行かないと聞いたが、本当はどうだろうか？

4.2 アンケートの方法と内容

アンケートは同じ質問で全国の日本人 30 名（男 15 名、女 15 名【20 才未満 8 名、20 代～30 代 19 名、41 代～60 代 3 名】）とミャンマーに住んでいるミャンマー人 30 名（男 13 名、女 17 名【20 才未満 1 名、20 代～30 代 21 名、31 代～40 代 7 名、41 代～60 代 1 名】）に答えてもらった。アンケートは「そう思う、どちらかと言うとそう思う、何とも言えない（分からない）、どちらかと言うとそう思わない、そう思わない」の 5 段階評価で作った。分析する時は特に断らない限り「そう思う」と「どちらかと言うとそう思う」、「そう思わない」と「どちらかと言うとそう思わない」を合わせて分析した。アンケートには無回答の人もいたが、分析する時はそれを入れて計算した。もともとはアンケートの資料を印刷して配る予定だったが、夏休みになって時間があまりないからインターネットを使用し、Google form を使ってアンケートを作った。それを 7 月 25 日から LINE を通じて配り始めた。Google form は回答してもらったデータの割合を自動的に計算する。そして、回収したデータを分析し、そこから仏教に対する日本人の意識を明らかにした

い。

アンケートの内容として、日本人は仏教をどのように信じているかについては質問(1)、毎日の生活にどのような影響を与えるかについては質問(2、3、10)を出した。そして、仏教に対する日本人の意識を知るため質問(4、5、6、7、8、9)を出した。さらに、これをお寺に関する質問(4、5、6)と仏教の教えの内容に関する質問を(7、8、9)分けた。お坊さんについては質問(11)を出した。

5 アンケートの結果と分析

以下の表の数字は%を示す。()は実数である。

5.1 仏教をどのように信じているかについて

表2 質問(1)あなたは仏教を信じますか？

	日本人	ミャンマー人
そう思う	3.3(1)	80(24)
どちらかと言うとそう思う	20(6)	33.3(1)
何とも言えない、分からない	33.3(10)	16.7(5)
どちらかと言うとそう思わない	23.3(7)	0(0)
そう思わない	20(6)	0(0)
無回答	0(0)	0(0)
合計	100(30)	100(30)

表3 上の質問(1)で「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」と答えた方に伺います。仏教を信じていることを誇りに思いますか？

	日本人	ミャンマー人
そう思う	0(0)	88(22)
どちらかと言うとそう思う	42.9(3)	12(3)
何とも言えない、分からない	42.9(3)	0(0)
どちらかと言うとそう思わない	0(0)	0(0)
そう思わない	14.3(1)	0(0)
無回答	0(0)	0(0)
合計	100(7)	100(25)

表4 上の質問(1)で「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」と答えた方に伺います。仏教を信じている理由ありますか？

	日本人	ミャンマー人
そう思う	0(0)	80(20)
どちらかと言うとそう思う	0(0)	20(5)
何とも言えない、分からない	14.3(1)	0(0)
どちらかと言うとそう思わない	42.9(3)	0(0)
そう思わない	28.6(2)	0(0)
無回答	14.3(1)	0(0)
合計	85.7(6)	100(25)

アンケートの結果を見れば、仏教を信じているかことをはっきり言う日本人は1人しかいなかった。一方ミャンマー人の83%は仏教を信じていることをはっきり言った。自分が信じているかどうか分からない人は、日本人は33%で、ミャンマー人が17%くらいいた。仏教を信じていないという日本人が43%くらいいたが、ミャンマーには0%だった。さらに、仏教を信じていることを誇りに思う日本人は10%で、83%以上のミャンマー人が誇りに思う結果が出てきた。日本人には何とも言えないと答えた人もいた。それだけではなく、日本人全員仏教を信じる理由を持っていない。逆に、ほとんどのミャンマー人は理由持っているようだ。仏教を信じる理由には色々な理由が書かれていたが、ほとんどは同じ内容で「仏教を本当に信じれば、人生が落ち着くこと、輪廻から抜け出すための教えだから、解脱してニルバーナ、つまり極楽にいけるから、仏教の教えは合理的な教えばかりだから。」のようにまとめることができた。

5.2 毎日の生活について

表5 質問(2)あなたは特定の日にお寺へ行きますか？

	日本人	ミャンマー人
そう思う	10(3)	63.3(19)
どちらかと言うとそう思う	16.7(5)	20(6)
何とも言えない、分からない	13.3(4)	0(0)
どちらかと言うとそう思わない	13.3(4)	0(0)
そう思わない	43.3(13)	0(0)
無回答	3.3(1)	16.7 (5)
合計	96.7(29)	83.3(25)

表6 質問(3)あなたは特定の日、お坊さんを家に呼ぶことがありますか？

	日本人	ミャンマー人
--	-----	--------

そう思う	20(6)	53.3(16)
どちらかと言うとそう思う	30(9)	13.3(4)
何とも言えない、分からない	6.7(2)	0(0)
どちらかと言うとそう思わない	3.3(1)	0(0)
そう思わない	36.7(11)	0(0)
無回答	3.3(1)	33.3(10)
合計	96.7(29)	66.7(20)

表7 質問(10)仏教の教えはあなたの毎日の生活に影響を与えますか？

	日本人	ミャンマー人
そう思う	3.3(1)	60(18)
どちらかと言うとそう思う	30(9)	23.3(7)
何とも言えない、分からない	13.3(4)	0(0)
どちらかと言うとそう思わない	26.7(8)	0(0)
そう思わない	26.7(8)	0(0)
無回答	0(0)	16.7(5)
合計	100(30)	83.3(25)

特定の日にお寺へ行く日本人は27%で、ミャンマー人は80%以上だった。お寺へ行くという日本人の大体は「法事、結婚式、新年」に行っており、ほとんどのミャンマー人は「満月の日、聖日²、誕生日、新年」にお寺に行くということが分かった。また、特定の日にお寺へ行かない日本人が多いが、特定の日にお寺へ行かないミャンマー人は一人もいないという結果だった。そして、特定の日、家にお坊さんと呼ぶ日本人は50%であり、ほとんどは「法事、葬式、四十九日、周忌」などの日に呼び、67%のミャンマー人は特定の日である「新築祝い、誕生日、特定の行事³、満月の日」などの日に呼んでいると書かれていた。ここにも、4割の日本人は特定の日であるが、お坊さんと呼ばないという結果で、特定の日、お坊さんと呼ばないミャンマー人は一人もいない。そして、仏教は毎日の生活に影響を与えると思う日本人が33.3%で、ミャンマー人の83.3%に比べるととても少ない。仏教の教えは毎日の生活に影響を与えるか与えないか分からない日本人も多いようだ。

5.3 仏教に対する日本人とミャンマー人の意識について

5.3.1 仏教の教えの内容に関する質問

表8 質問(4)自分がいいこと、または悪いことをすると、いつかそれを自分が受けるというのを信じますか？

	日本人	ミャンマー人
--	-----	--------

そう思う	20(6)	80(24)
どちらかと言うとそう思う	53.3(16)	13.3(4)
何とも言えない、分からない	10(3)	0(0)
どちらかと言うとそう思わない	3.3(1)	0(0)
そう思わない	10(3)	0(0)
無回答	3.3(1)	6.7(2)
合計	96.7(29)	93.3(28)

表9 質問(5)仏教で殺生はダメだとされていますが、それを守りますか？

	日本人	ミャンマー人
そう思う	20(6)	60(18)
どちらかと言うとそう思う	53.3(6)	13.3(4)
何とも言えない、分からない	16.7(5)	3.3(1)
どちらかと言うとそう思わない	16.7(5)	0(0)
そう思わない	26.7(8)	20(6)
無回答	0(0)	3.3(1)
合計	100(30)	96.7(29)

表10 質問(6)生まれ変わるということを信じますか？

	日本人	ミャンマー人
そう思う	16.7(5)	43.3(13)
どちらかと言うとそう思う	26.7(8)	23.3(7)
何とも言えない、分からない	13.3(4)	0(0)
どちらかと言うとそう思わない	16.7(5)	3.3(1)
そう思わない	26.7(8)	30(9)
無回答	0(0)	0(0)
合計	100(30)	100(30)

自分がいいこと、または悪いことをしたら、いつかそれを自分が受けるということを信じているかについては、ほとんどの日本人とミャンマー人がそう思っている。殺生のことについては、日本人は守る人と守らない人が大体40%くらいで同じくらいだが、分からない人は17%くらいいる。ミャンマーでは守らない人が17%くらいいるが、大体は守ると言っている。そして、生まれ変わることを信じるかどうかでは、日本人では信じる人と信じない人が43%くらいで同じ割合になり、残りの割合は分からないと言っている。ミャンマー人を見ると、60%以上の人が信じるという答えであり、33%くらいは信じないという

答えだった。

5.3.2 お寺に関する質問

表 11 質問(7)あなたはお坊さんと会った時、仏教の教えについて話しますか？

	日本人	ミャンマー人
そう思う	13.3(4)	46.7(14)
どちらかと言うとそう思う	10(3)	16.7(5)
何とも言えない、分からない	23.3(7)	3.3(1)
どちらかと言うとそう思わない	53.3(16)	0(0)
そう思わない	0(0)	16.7(5)
無回答	0(0)	16.7(5)
合計	100(30)	83.3(25)

表 12 質問(8)お寺に行くと、精神的に落ち着くと思いますか？

	日本人	ミャンマー人
そう思う	23.3(7)	63.3(19)
どちらかと言うとそう思う	33.3(10)	13.3(4)
何とも言えない、分からない	30(9)	6.7(2)
どちらかと言うとそう思わない	6.7(2)	0(0)
そう思わない	6.7(2)	0(0)
無回答	0(0)	16.7(5)
合計	100(30)	83.3(25)

表 13 質問(9)お寺に行って、仏様に何か自分が欲しいものをお願いしますか？

	日本人	ミャンマー人
そう思う	26.7(8)	40(12)
どちらかと言うとそう思う	20(6)	10(3)
何とも言えない、分からない	3.3(1)	3.3(1)
どちらかと言うとそう思わない	23.3(7)	10(3)
そう思わない	26.7(8)	20(6)
無回答	0(0)	16.7(5)
合計	100(30)	83.3(25)

表 14 上の質問(9)で「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」と答えた方に伺いま

す。その願いは叶うと思いますか？

	日本人	ミャンマー人
そう思う	14.3(2)	20(3)
どちらかと言うとそう思う	42.9(6)	33.3(5)
何とも言えない、分からない	28.6(4)	20(3)
どちらかと言うとそう思わない	7.1(1)	13.3(2)
そう思わない	7.1(1)	13.3(2)
無回答	0(0)	0(0)
合計	100(14)	100(15)

お坊さんと会った時、日本人は仏教について話す人がとても少ない。ところが、多くのミャンマー人はお坊さんと会ったら、よく仏教の話をするという結果がでた。しかし、お寺に行ったら、精神的に落ち着くと感じている割合は日本人とミャンマー人同じくらいである。また、お寺に行くと、仏様に何かをお願いする日本人とミャンマー人は50%くらいで同じ割合になる。また、そのうち願いが叶うと思っている日本人の割合とミャンマー人の割合はだいたい同じである。しかし、願いが叶うと思っていない人もいて、それは日本人よりミャンマー人の方が割合が大きい。

5.3.3 お坊さんに関する質問

表 15 質問(11)あなたはいつかお坊さんになりたいと思いますか？

	日本人	ミャンマー人
そう思う	0(0)	16.7(5)
どちらかと言うとそう思う	0(0)	10(3)
何とも言えない、分からない	0(0)	16.7(5)
どちらかと言うとそう思わない	13.3(4)	6.7(2)
そう思わない	86.7(26)	33.3(10)
無回答	0(0)	16.7(5)
合計	100(30)	83.3(25)

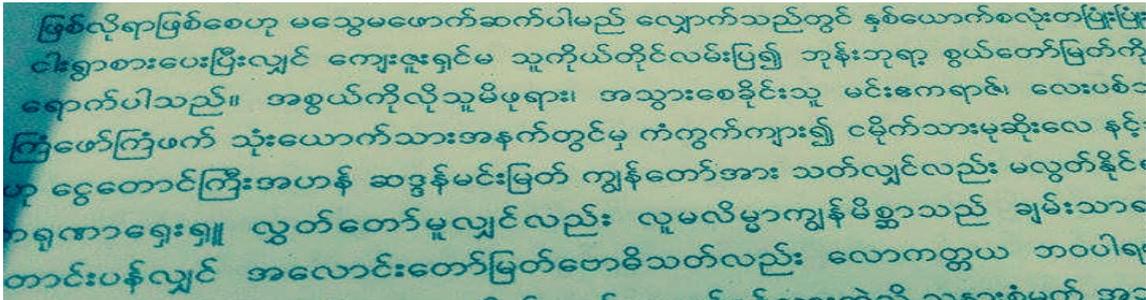
将来お坊さんになりたい日本人は0%で、ミャンマー人の男性はほとんどなりたいと思っている。

6 考察

表2～表4の結果を考えると、日本人はミャンマー人ほど仏教をはっきり信じてい

ないことが分かった。さらに、日本人は仏教を信じる明確な理由を持っていないが、ほとんどのミャンマー人は信じる理由を持っている。それはミャンマーに対する仏教の影響であり、ミャンマー人の生活には仏教の教えが大きな影響を持っている。そして、ミャンマーでは仏教の教えは子供の頃から親に教えられる。学校の国語の中でも仏教に関する教えがゴータマの物語を通して教えられる。

写真（1）



写真（1）は国語の教科書の一部で、ゴータマが前世で象であったことが書かれている。このように小学校を始め、大学まで仏教の伝説が教えられている。

そして、特定の日、お寺に行く日本人は少ないが、ミャンマー人は全員特定の日、お寺に行くという。よく考えてみると、日本では仏教の影響が薄くて、ミャンマーでは強いのである。また、特定の日にお坊さんを家に呼ぶ人が多い。ほとんどの日本人が葬式、四十九日、周忌などのおめでたいことではない場合にお坊さんと呼ぶ。それは江戸時代の檀家制度と関係があり、やはり日本の仏教は葬式仏教であることをよく反映している。ミャンマー人のほとんどは誕生日、結婚式などのおめでたい時呼ぶ。驚いたことに特定の日にもお坊さんと呼ばない日本人がとても多い。それを見ると、仏教に対する日本人の関心が薄いのは明らかである。

また、自分がいいこと、または悪いことをすれば、いつかそれを自分が受けるとする日本人もミャンマー人も多い。ミャンマー人にとってやはり仏教の教えは頭の中に強く意識されているのである。しかし、日本人にとって、それは宗教的に関係していると思わない。社会的に考えると、「動と反動」という言葉によれば、自分が何かいいことをすると褒められるし、悪いことをすると罰せられるのは一般的な考えである。ところが、そう思わない日本人もいる。それは、宗教的に関係していると思う。やはり日本人の仏教の関心が薄いからではないだろうか。

殺生のことについては守るミャンマー人が多い。やはりそれは仏教に関する意識が強いことであるに違いない。日本人の中にも守ると答えた人がたくさんいるが、それは自然的な考えではないだろうか。例えば、私たちは自分の命を奪われること、虐められるというのは嫌なことであるだろう。ところが、守らない日本人とミャンマー人が結構多い。社会的に考えると、おそらく仕方がなくて殺してしまうとか、また無意識で殺してしまう場合

もあるかもしれない。また、社会人として殺生を現実を守るというのはなかなか難しい。宗教的に考えると、どんなに自分の宗教は仏教であるという意識を持っているとしても、事実としてはその意識は弱くなっているのである。ここでキリスト教である一人の男性が答えた回答を考えてみよう。この人は、キリスト教なのに、殺生のことを守ると答えた。全ての宗教で殺生のことが禁止されているわけではない。それは人の考え方によって違うと思う。結局、殺生というのは仏教では宗教的な考えであるが、現実には殺生に対する一人一人の意識や考え方次第による。

しかし、生まれ変わることを信じる日本人はかなり多いのは不思議である。どうして、そう思っているのだろうか。やはり日本人の頭の中に宗教的な教えが意識されていないが、死んだらどうなるかということが気になるという点で無意識的にある程度まではのこっているようだ。大体のミャンマー人が生まれ変わるということを感じているのは仏教の教えである前世、現世、来世のつながりを信じているからだと思う。しかし、生まれ変わるということを感じない日本人もミャンマー人も結構多い。おそらく生まれ変わるというのは科学的に事実ではないと思っているのかもしれない。だから、生まれ変わるということは科学的にはっきり言えないが、宗教的な考えや色んな原因でそれを信じる人も多い。

お坊さんと会った時、仏教の話をするミャンマー人が多いが、そうする日本人はとても少ない。結局それも日本人の宗教的な関心が薄いからではないだろうか。また、お寺に行くと精神的に落ち着くと思う人が多いのはお寺というのはやはり静かで、宗教的な場所とを感じるからかもしれない。ところが、日本人の中にそう思わない人もいる。その人たちにとってお寺というのは普通の場所で、宗教的な場所と思っていないかもしれない。日本人のお寺に関する関心はミャンマー人ほどではないが、ある程度までは意識されているのである。

ところが、日本人は仏教を信じないのに、お寺に行くと仏様に何かをお願いするのはなぜだろう。仏教の教えが無意識の中にある程度まで残っているからなのだろうか。ミャンマー人はお寺に行って何かをお願いするのは仏教の影響で、それは習慣のようになっている。しかし、仏様をお願いしても、叶うと思わない日本人とミャンマー人もかなりいる。私はそれを不思議とは思わない。それは、一般的な考えであると思う。例えば、自分が勉強しないと、合格できるはずがない。ところが、逆に叶うと思っている日本人もミャンマー人も多い。それは文化の影響であり、昔の伝説、物語などによれば、人たちの願い事は叶うと書かれているのである。また、お寺に行ってもお願いしない日本人もミャンマー人もかなりいる。それは、社会的な考えではないだろうか。例えば、〇〇〇が欲しい、〇〇〇したいとお願いするだけでは、一向に叶わない。現実には自分が頑張らないと何もできないと思っているからお願いしないのだろう。

7 おわりに

現代の日本人は仏教であるとしても、仏教の教えを詳しく分からないし、自分がどうし

て信仰しているのかも分からない人が多い。しかも、自分は宗教に関係ないように生活しており、また、仏教の特定の日々、文化なども宗教的に考えず、それが習慣のようになったものである。ある調査によれば、自覚的に信仰を持つ人もいとされ、日頃、信仰に基づく宗教行動を行っている人、たとえば、毎日経を読んだり、定期的にお寺に行ってお話を聞いたり、食前にお祈りしたりする人は、大体国民の10%程度で、日本人に対して、仏教の影響はあまりないとされている。また、日本では、昔、一つの家には、神棚と仏壇があり、神仏とともに敬われていた。今日でも、赤ちゃんが生まれた時の習慣的な礼儀は神社で行い、葬式は寺院で行い、結婚式はキリスト教の教会で行うということも、珍しくない⁴。この調査はアンケートの結果と同じことである。アンケートは60人が対象（日本人30名、ミャンマー人30名）で、この人数うちでの結果である。今後は人数を増やしてアンケートを取ってみたいと思う。

注：

- 1) 参考文献にあげた文献を読んでまとめたものである。
- 2) 聖日というのはミャンマーカレンダーによる毎月の上弦の月8日、下弦の月8日、満月の日、新月の日。
- 3) 特定の行事はお正月、出家の日（家族の誰かが出家する日）、仏様の誕生日であるタデインジュ祭りなどである。
- 4) 竹村（2015：135-136）から再引用。

感謝：

最初に、本研究のため色々助けてくださった指導教員に心より感謝を申し上げます。そして、アンケートのためご協力くださった60人の日本人とミャンマー人にいつまでも心より感謝したいと思います。最後にアンケートを配るため、手伝ってくれた友達の皆さん、本当にありがとうございます。

参考文献：

- 1) 山本道生（編）（2005）『知っておきたい日本の仏教』 「えい」 出版社
- 2) 竹村 牧男（2015） 「日本人の宗教生活と仏教（講演録）」 『国際井上円了 学会』 3. 133-144
- 3) 仏教書総目録刊行会（2005） 『仏教の歴史』 [<http://www.bukkyosho.gr.jp/>]（2016年5月3日）
- 4) Google:[<http://www.good-stone.com/hp/top/qa/qa-80.htm>]（2016年7月15日）
[<http://homepage3.nifty.com/54321/nihonbukkyoushi.html>]（2016年6月5日）
[http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1353974853]（2016年5月25日）

アンケート資料

日本人と仏教

ヤ・バ・ヤ
日本語・日本文化研修生
広島大学

あなたの年代_____

性別: 男 / 女

下記の「①、②、③、④、⑤」から、あなたに最も当てはまるものを一つ選んでください。
「①はそう思う、②はどちらかと言うと少しそう思う、③何でも言えない、分からない、
④どちらかと言うと少しとそう思わない、⑤そう思わない」。皆様のご協力よろしくお願いします。

【1】あなたは仏教を信じていますか？

- ① ② ③ ④ ⑤

【2】次の(2-1)と(2-2)は上の【1】で①または②を選んだ方に伺います。

(2-1)仏教を信じていることを誇りに思いますか？

- ① ② ③ ④ ⑤

(2-2)仏教を信じている理由がありますか？

- ① ② ③ ④ ⑤

【3】上の(2-2)で①または②を選んだ方に伺います。その理由は何ですか？()に書いてください。

(_____)

【4】(4-1)あなたは特定の日にお寺に行きますか？

- ① ② ③ ④ ⑤

(4-2)上の(4-1)に①または②を選んだ方に伺います。その日は何ですか？()に書いてください。いくつ書いても構いません。

(_____)

【5】(5-1)あなたは特定の日にお坊さんを家に呼んだことがありますか？

- ① ② ③ ④ ⑤

(5-2)上の(5-1)に①または②を選んだ方に伺います。その日は何ですか？()に書いてください。いくつ書いても構いません。

(_____)

【6】自分がいいことまたは、悪いことをやったら、いつかその結果は自分が受けるという考えをどう思いますか？

- ① ② ③ ④ ⑤

【7】仏教に殺生はダメだという風にされていますが、それを守っていますか？

- ① ② ③ ④ ⑤

【8】前世、現生と来世は繋がっていると思いますか？

- ① ② ③ ④ ⑤

【9】お坊さんと会う時、仏教のことについて、お話ししますか？

- ① ② ③ ④ ⑤

【10】お寺に行くと、精神的に落ち着くと思いますか？

- ① ② ③ ④ ⑤

【11】(11-1)お寺に行くたびに、仏様に何か欲しいものをお願いしますか？

- ① ② ③ ④ ⑤

(11-2)上の(11-1)に①または②を選んだ方に伺います。もし、お願いすれば、叶うと思いますか？

- ① ② ③ ④ ⑤

【12】仏様の教えはあなたの毎日の生活に影響を与えますか？

- ① ② ③ ④ ⑤

【13】あなたはいつかお坊さんになりたいと思っていますか？

- ① ② ③ ④ ⑤
